

194.緩和ケア患者に適した口腔内評価ツールの検証

研究の概要

緩和ケア患者が抱く口腔疾患は、口腔乾燥、口腔カンジダ症、嚥下障害、粘膜炎など多岐にわたって報告されており、最期までQuality Of Life (QOL)を維持するためにも口腔ケアは非常に重要とされています。しかし、緩和ケア患者に対して推奨される口腔内評価ツールはなく、私たち医療従事者は、緩和ケア患者の口腔をどう評価し、介入したら良いのか漠然としたままです。

口腔内を包括的に評価するツールとしてOral Assessment Guide (OAG)とOral Health Assessment Tool (OHAT)があり、いずれも信頼性と妥当性が検証されている評価ツールです。これらは歯科医師に限らず誰しものが視診で評価することができ、侵襲はありません。

今回の研究で、OAGとOHATどちらの評価ツールが緩和ケア患者に適したものが明らかとなれば、そのツールをもとに緩和ケア患者への口腔ケアのプロトコルができ、マニュアル作成へと繋げられる可能性があります。

研究の目的と方法

緩和ケア患者にとって、Oral Assessment Guide (OAG)とOral Health Assessment Tool (OHAT)のどちらの口腔内評価ツールが適しているか検討することを目的とします。診療で得られた臨床データを電子カルテから集計し、時間依存性ROC曲線法と機械学習などによる統計手法を用いて検証する後ろ向き研究です。

本研究の参加について

以下の対象患者に対して、過去の診察情報から調査を行います。新たに検査や情報を取得することはありません。

・対象基準

- (1)令和3年3月1日～令和5年3月31日までの間に当医療センターに入院していた患者
- (2)末期がんと診断された患者
- (3)緩和ケアチームによる治療を受けた患者
- (4)口頭・書面によるinformed consentを行い、歯科介入に同意を得た患者

・除外基準：

延命のために化学療法を受けていた患者

なお、ご自身のデータを本研究に使わないでほしいと希望される方、その他、研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先にご連絡ください。

調査する内容

以下の内容を既存の診療情報から調査します。

年齢、性別、癌の原発部位、経口摂取量、Performance Status(PS)、死亡日、OAGとOHATを用いた口腔内の評価結果、残存歯数、咬合支持域、ブラッシング回数

※OAG:

声、嚥下、口唇、舌、唾液、粘膜、歯肉、歯・義歯の8つの項目から構成。

各項目は1,2,3とスコア化され、8(正常)~24(異常)点の合計点で評価される。

※OHAT:

口唇、舌、歯肉・粘膜、唾液、残存歯、義歯、口腔清潔および歯痛の8つの項目から構成。

各項目は0,1,2とスコア化され、0(正常)~16(異常)点の合計点で評価される。

調査期間

研究対象期間：令和3年3月1日~令和5年3月31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後~令和6年3月31日まで

研究成果の発表

海外への論文投稿や国内の学会発表を予定しています。

研究代表者

熊本医療センター 歯科口腔外科 中尾 美文

当院における研究責任者

熊本医療センター 歯科口腔外科 中尾 美文

問い合わせ先

熊本医療センター 歯科口腔外科 中尾 美文

096-353-6501 (代表)